

今の心境

4年 鈴木俊明

原稿を書いてくれと言われ、軽率にも原稿用紙を受け取ってしまった。よくにクラブに顔も出していないのに、何を言ったらよいものが、頭をひねくりまわしても、ただただ、原稿用紙を受け取らなければよかったと、後悔するばかりだ。最後にツリーングに行ったのはいつだったろうかと思いつくと、しばらくの間考え込んでしまった。半命は膝が痛いから、おとの半命は体力的衰えと、気力の衰え、要するにめんどうくさいやという理由で、更には4年になり卒論の実験に追われて、随分と長い間サイクリングから遠ざかっている。

その結果、近頃ではサイクリング、自転車に対して、言ってしまうと、他人事？のまうに感じるようになってしまっている。時々町中を輪行車が走っているのを見るけれど、前はある種の共感をもったのに、このごろではこの寒さの中御苦勞さんだなといった半ば尊敬の気持ちの入らなくなった心境にかっている。

今年の春、研究室の行事で羞花溪谷ハイツコウコウに行ったのだが、坂になっている見直を歩いてみると、どうも見覚えのある風景だと感じてきた。よく考えてみれば、前に自転車で走った道を歩いてきた人だと思いついて、思わずなにかしい気持ちを感じてきた。つい最近でも、こたつにはいってテレビの天気予報を見ていると、倉宿で行った地帯の名所が背景に出てき

たりする。

こんな感じに、時々何かの拍子にワーリングの事を思い出すのだけれど、何と言っても頭の中に一番はつきりと残っているのは、登り坂の事だ。坂を登りはじめの頃は、これから先の苦節の事を考えていやだなあと思ったり、まわりの連中がどの位のペースで行くんだろうと意識したりで、割と疲れを感じてしまう。そのうちに替はらばらになると、調子が良ければマイペース、調子が悪ければ、人は人自分は自分だなどと様々に意味に、タラタラとペダルをこぐ。そして、何だかんだと、わけのわからぬ事を考えながら登るうちに、苦節が報われて無事峠に着く。振り返ってみれば、ただの単純作業みたいなものだけれど、登りきってしまうと、ついつい嬉しくなってしまう。

よく考えてみれば、昔の自分の生活もこれと同じパターンで繰り返されているような気もしてくる。

結局のところ、今ではこんな有難で 自分に就いてハイキングがもう いわゆる“いい思い出”となっていてしまっているという感じがする。

そんなわけで、何を言ってもいいか考えながらだらだらと続けていくうちに、何だかわからない文章になってしまいました。今の心境はこんなものです。以上。